



さくら車いすプロジェクト 2023活動報告

## 1. 事務所の移転・代表交代について

皆様へのご挨拶・ご報告が遅くなってしまい申し訳ございません。2023年よりさくら車いすプロジェクトは、設立当初より代表をつとめて参りました齊藤省から篠田浩之に世代交代し、住所も篠田浩之の運営するスイッチ株式会社に住所移転いたしました。

本来であれば会員の皆様に直接、ご報告・ご挨拶すべきところではございますが、このような形でのご報告になりましたことをご容赦ください。

### 【新住所】

〒121-0013

東京都葛飾区東立石2丁目2番地4号

TEL : 03-5654-7728

## 2. パキスタンへの電動車いす輸送

2023年度もパキスタンにコンテナで2回（5月・12月）車いすを輸送しました。今年度から日本郵船株式会社様より、コンテナ輸送費の支援が受けられることになりました。神辺の桂さんからもたくさん車いすを送っていただきました。



## 3. JICA基金活用事業採択

2023年にさくらで申請した「パキスタン中古電動車いす提供による重度障害者の社会参加支援事業」がJICA基金事業で採択されました。この事業では、さくらの支援者・協力者を増やしていくための広報事業と、これまでのパキスタンでの取り組みをとりまとめる事業を実施します。これらの事業により、さくらの活動を広げ、

パキスタンをはじめとし、他の国の支援に活かしていきたいと思います。事業実施は、2024年から、助成額は100万円の予定です。

#### 4. パキスタン訪問（7/2～10）

コロナ以降、現地に行くことが難しくなってしまったため、現状の確認をするため

篠田、ハビブ、西尾の3名でパキスタン（ラホール・イスラマバード）を訪問してきました。現在、マイルストンでは月に500台の手動車いすを製作しており、現地の大きな収入源となっています。

ハビブ、篠田は、来年度以降、パキスタンで製作を検討している電動車いす、サッカー用車いすのバンパーの素材、市場調査、塗装、溶接技術の確認もしました。そのほか、マイルストン事務所・電動車いす利用者宅訪問、JICAパキスタン事務所、在パキスタン日本大使館、イスラマバードSAAYA、等を訪問し意見交換を行いました。



#### 5. マイルストンメンバー来日・車いす製作研修（9/22～12/12）

パキスタンCBIDネットワークが日本の障害者福祉制度やバリアフリーの状況を視察するため15名（マイルストンからは5名）が来日しました。

ヒューマンケア協会、全国自立生活センター協議会、障害者宅訪問、国際福祉機器展での視察、さくら車いすプロジェクトメンバーや支援者、在日パキスタン有志の方々との懇親会も行いました。



【全国自立生活センター協議会を訪問】



【浅草まで船をチャーターしました】

視察団帰国後、マイルストンの車いす製作チームは、宮崎のハビブの工房に移動し、クッションや座位保持シートの縫製、電動車いすの組み立て、溶接、塗装、サッカー用車いすのバンパー製作など、3か月間、様々な技術、知識を習得しました。



## 6. 日本電動車いすサッカー協会との連携

現在、日本における重度障害者の余暇、スポーツへの参加においては、呼吸器使用者や指先しか動かないような重度障害者が参加できる唯一のスポーツが電動車いすサッカーのみです。しかし、日本の補装具給付制度では、電動車椅子サッカーで使用するバンパーは、本人の自己負担（約 25 万～30 万円）となっているため、個人への経済的負担が大きく、重度障害者のスポーツ参加を妨げる一つの要因となっています。そこで、今後、マイルストンでバンパーを製作し日本で安価に販売することで、日本とパキスタンの障害者の支援につながると考えています。

そこで、来年度は、日本電動車いすサッカー協会とも連携して、

- 1 日本での電動車いすサッカー用車いすの販売体制の構築
- 2 パキスタンでのバンパーの製作

- 3 パキスタンのサッカー用電動車いすの製作、  
4 日本・パキスタンの親善試合を実現させたいと考えています。



### 【ウクライナ関連】

さくらでは、パキスタン以外にも、モンゴル、ネパール等にもコンテナでの車椅子の送付等を行ってきました。2022年には、ヨーロッパの情報を日本のメディアに送っておられる、ロンドン在住の国際ジャーナリストの木村正人様と奥様の史子さん（日テレのプロディューサー）から、ウクライナで車椅子を必要とされている実情や手動車椅子の提供要請がありました。そこで直ぐに第一便として、22年の末に「さくら」広島支所長（CIL かんなべ代表）の桂さんからを発送すると共に、全国の海外に車椅子を送付している団体や車椅子シーティング協会所属の車椅子業者等に声をかけ合い、ALL JAPAN の協働で1000台の送付を目指しました。

そして23.7.11日、5回目のコンテナ積込を、東京練馬区の「希望の車いす」さんにて行い、目標を超えた1095台目の車椅子の送付を達成しました。（ウクライナへの到着は12月）

この日、それを記念し「希望の車いす」に集まり、ロンドンからの木村さんご夫妻を囲み、札幌の吉田さんや、全国の関係団体、そしてコンテナ輸送費をCSR（企業の社会貢献）で全額負担して下さった日本郵船さんらを交え、ウクライナに届いた車椅子の写真や動画を観ながら、目標達成のお祝いをしました。桂さんも広島からZoomで参加してくださいました。



23.7.11

**豪華ゲスト**

斎藤さんは09年に車いす工房を創業し、オーダーメードの運動車いすの製造・修理などを手がけてきた。海外の障害者は車いすを提供する際にも取り組み、プロジェクトを立ち上げる。パキスタンでは障害者に車いすの生産技術を教えると共に、車いすの誕生にもつなげた。今春、工房は後進に、新たに「車いす研究室」を立ち上げて車いすの開発力と製造力を強化する。「技術で世界を結び、分断ではなく、平和につなげたい」と語る。

【大合図】

2023.5.29



第1便の車椅子、FFU（フューチャー フォー ウカラ什）のメンバーによって様々な場に運ばれました。



国際ジャーナリストの木村正人さんに日本の高校生がウクライナ語で書いた色紙をウクライナに持参してもらいました。